

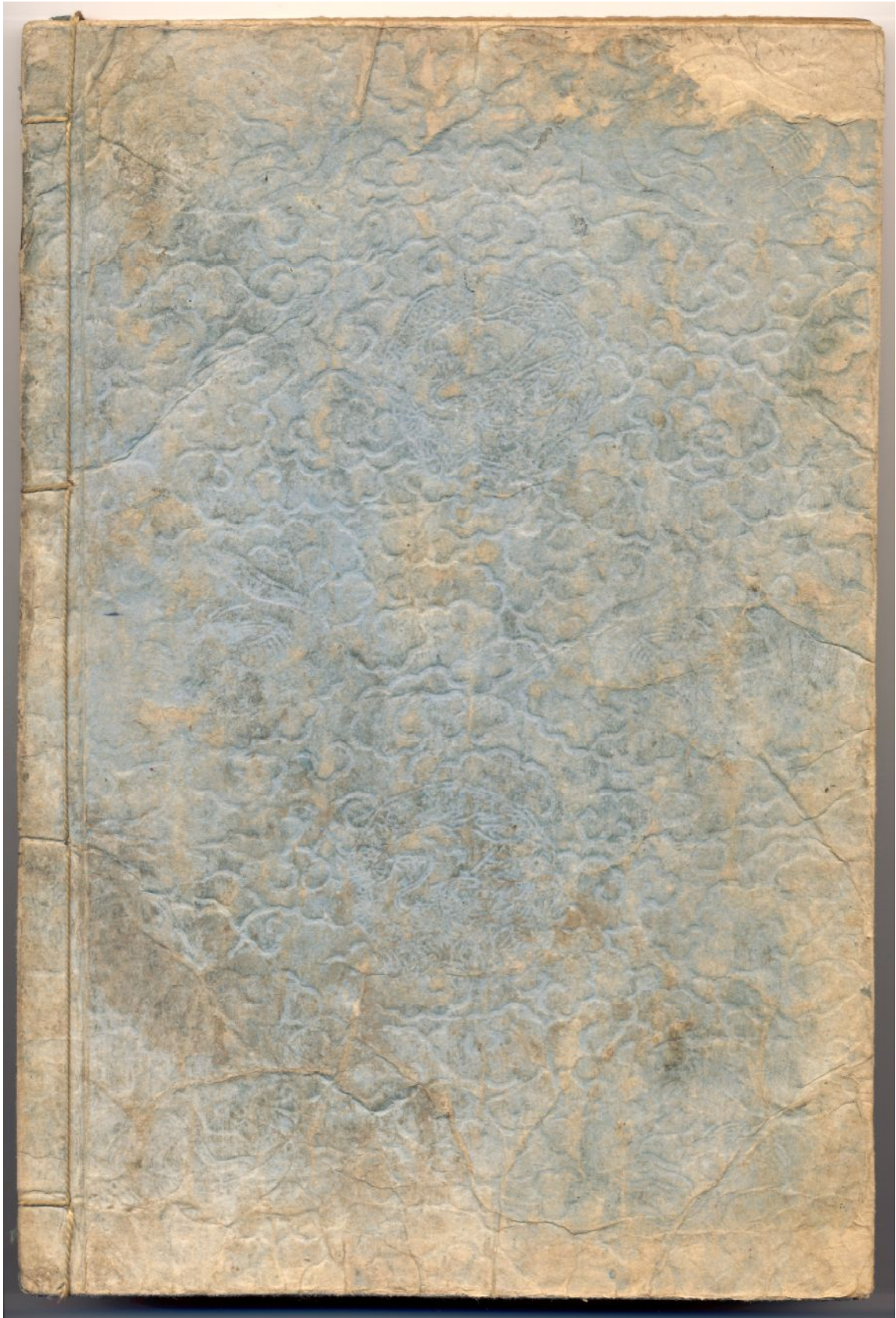


見事に装丁には「むれ」が生じ、元題箋も欠けているが、元装である。  
元装であることは、架蔵書の昭和51年(1976年)に青青堂出版から解説本と共に影印復刻された「草木奇品家雅見」と同一紋様であることから同定した。

なお、「むれ」で色も褪せているが、前書の解説で前島康彦氏が記された「美濃判淡藍表紙」である。

Copyright (C)2008 増田信敬 (masuda nobutaka) All rights reserved

{ [HYPERLINK "http://soumokukihinkagami.com/"](http://soumokukihinkagami.com/) }



表紙と同紋様である。私見であるが、八雲立つ雲の中に、「龍」と「富士」の絵が描かれているかと思う。「富士」は、氏神であった千駄ヶ谷八幡(鳩森八幡)の富士塚に因み、天保年間、旗本水野忠暁が関根雲停に描いてもらった「小万年青名寄」においても、増田繁亭金太郎の万年青には「葵藝凧」と名が付され、鉢に雲の上に立つ富士山と凧が染付けされている。

Copyright (C)2008 増田信敬 (masuda nobutaka) All rights reserved

{ [HYPERLINK "http://soumokukihinkagami.com/"](http://soumokukihinkagami.com/) }